

金沢市都市計画マスタープラン

～ 都市計画に関する基本的な方針 ～

第2回策定委員会資料

平成19年11月29日

平成 19 年度 金沢市都市計画マスタープラン 目次

前回提示、協議部分

序 計画策定にあたって序-1

序 - 1 計画の概要序-1

序 - 2 既定計画策定以降の都市づくりの取り組み序-4

第 1 章 都市づくりの視点と課題1-1

1 - 1 現行の都市計画マスタープランにおける視点・課題等1-1

1 - 2 今回の改訂にあたっての視点1-2

(1) 時代の潮流から考慮すべき要素1-3

(2) 上位関連計画から考慮すべき要素1-8

(3) 市民意向から考慮すべき要素1-11

1 - 3 今回の改訂にあたっての課題1-18

第 2 章 都市の将来像2-1

2 - 1 都市づくりの将来像2-1

2 - 2 都市づくりの目標2-2

2 - 3 将来の都市構造2-4

(1) 将来都市構造2-4

(2) 都市のコンパクト化に向けた考え方2-15

今回提示、協議部分

第 3 章 重点的都市づくりプロジェクト

第 4 章 都市づくりの方針

4 - 1 土地利用の方針

4 - 2 都市基盤整備の方針

(1) 市街地づくり〔市街地整備〕

(2) 道づくり〔道路・交通整備〕

(3) 憩いの場づくり〔公園・緑地・みどり〕

4 - 3 都市環境整備の方針

(1) 都市景観づくり〔伝統的景観・近代的景観等〕

(2) 安全・安心な環境づくり〔防災・バリアフリー・ごみ処理施設等〕

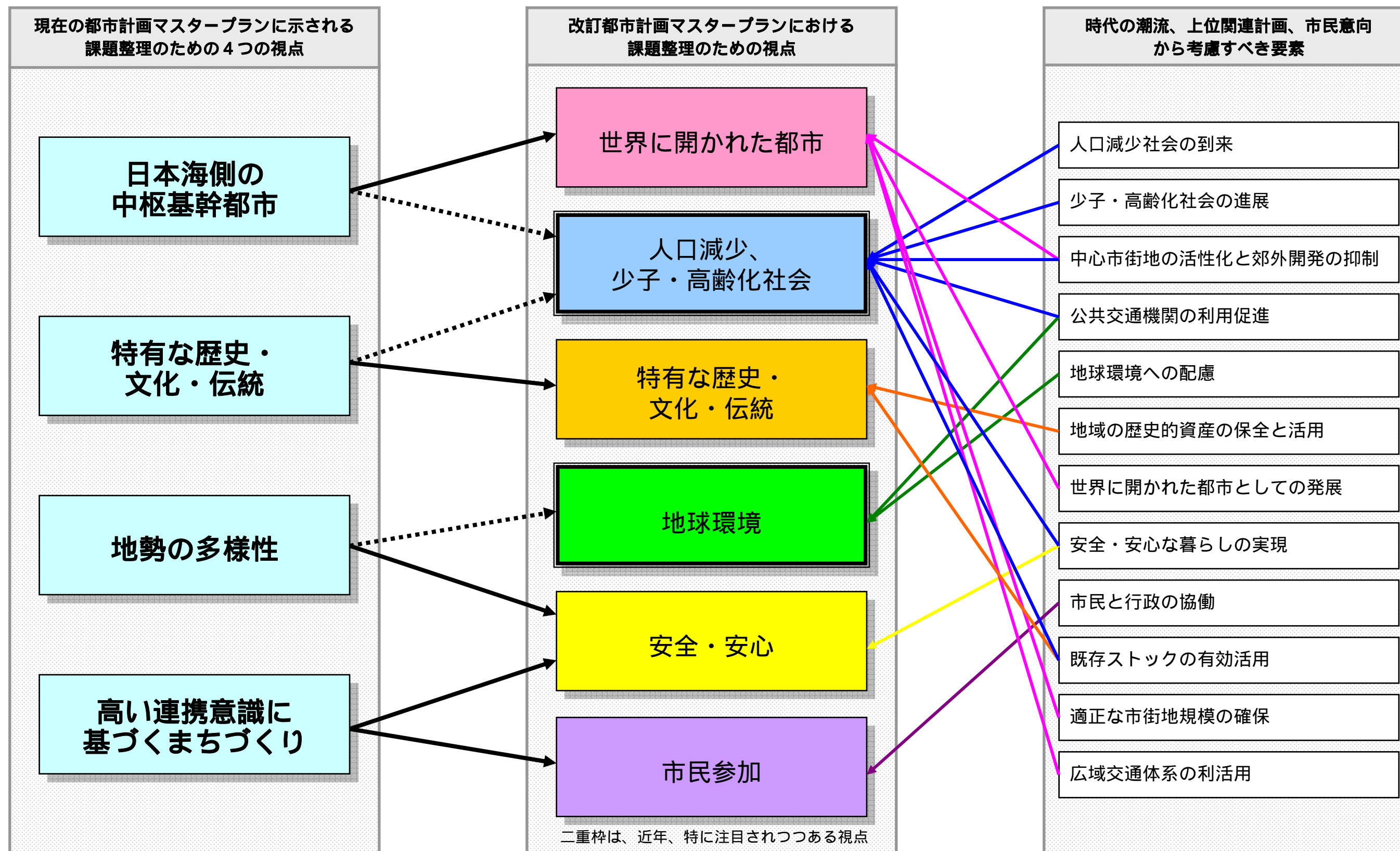
(3) 水環境づくり〔下水道・河川〕

(4) 市民生活を支える公共公益施設づくり〔教育福祉施設・上水道・ガス等〕

4 - 4 市民参加のまちづくり方針

1 2 今回の改訂にあたっての視点

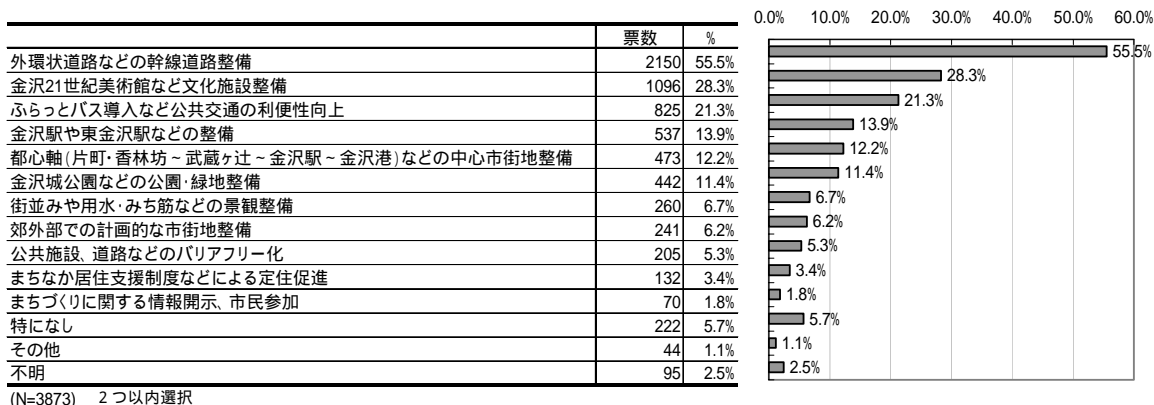
都市計画マスタープランの改訂にあたっての視点については、現在の都市計画マスタープランに示される視点に、「時代の潮流」「上位関連計画」及び「市民意向」から、新たに考慮すべき要素を加味して抽出しました。



(3) 市民意向から考慮すべき要素

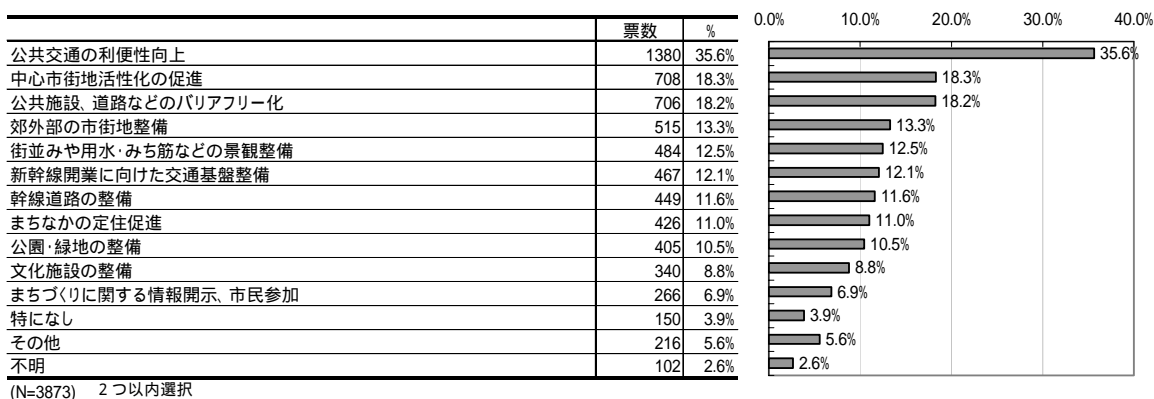
1) 過去10カ年の金沢市のまちづくりの取り組みに対する評価

特に幹線道路や文化施設の整備、公共交通の利便性向上が評価されており、今後はこれらの都市基盤の有効活用が期待されます。
新たに整備された社会資本の有効活用



2) 今後重視すべき取り組み

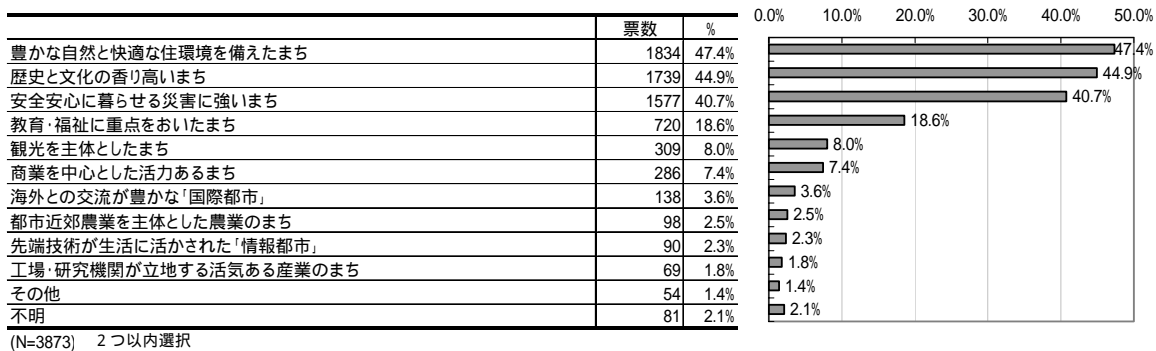
今後は、公共交通の利便性向上、中心市街地の活性化、バリアフリー化などを重視すべきとの声が多くなっています。
公共交通機関の利用促進、中心市街地の活性化と郊外開発の抑制
バリアフリーに配慮した社会資本の整備



3) 市全体の将来像

歴史・文化の香りの高さに加えて、豊かな自然と快適な住環境、安全安心に暮らせる災害に強いまちづくりを望む声が高まっています。

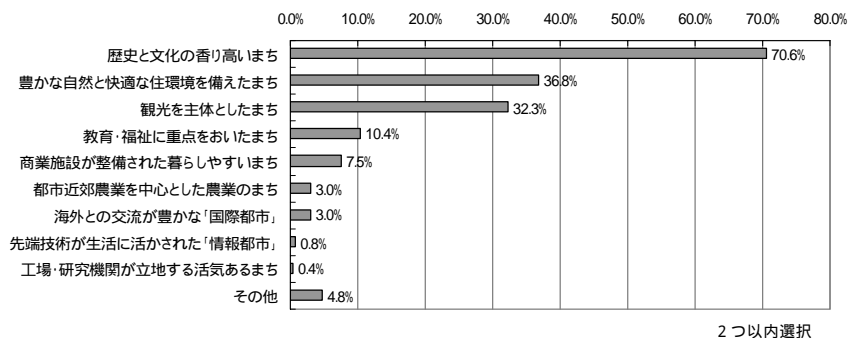
地域の歴史的資産の保全・活用、地球環境への配慮
安全・安心な暮らしの実現



< 既定計画との比較 >

既定計画時においては、「歴史・文化の香り高いまち」が圧倒的に多く選択されていましたが、前回第2位であった「豊かな自然と快適な住環境を備えたまち」が今回第1位となって逆転し、また、今回選択肢に加えた「安全安心に暮らせる災害に強いまち」が第3位となり、いずれも40%台の高い割合となったことが特徴的でした。

多発する自然災害や環境問題への関心の高まりなどを背景に、市民の抱く本市の将来像が変化し、かつ多様化していることがうかがえます。

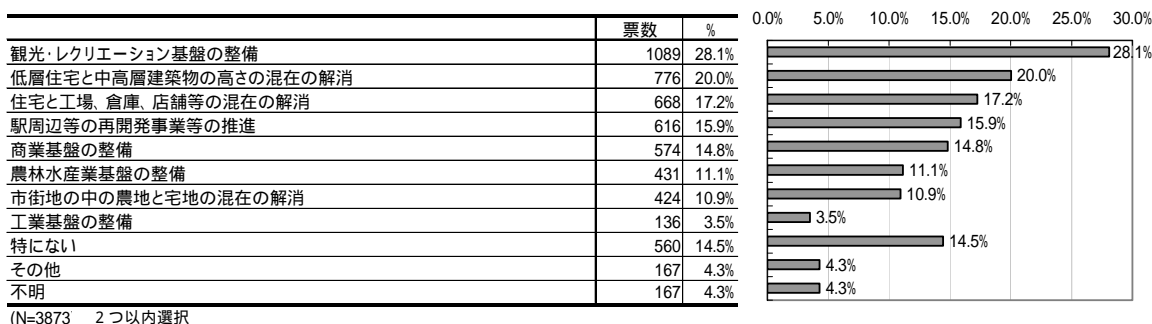


4) 金沢市に必要な都市づくりの方向性

世界都市金沢の実現に向けて、観光基盤の強化、中心市街地の活性化、自然・歴史的な景観等の保全の必要性を感じている一方で、市民生活に密着した生活道路や身近な公園、高齢者福祉施設の充実が求められています。

世界に開かれた都市としての発展、中心市街地の活性化と郊外開発の抑制地域の歴史的資産の保全と活用、安全・安心な暮らしの実現

土地利用

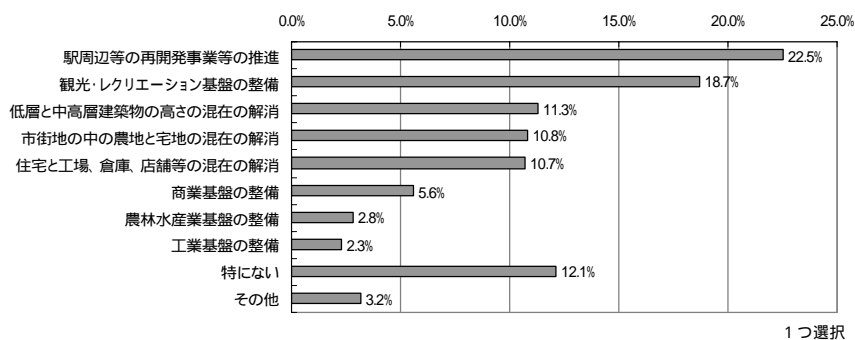


< 既定計画との比較 >

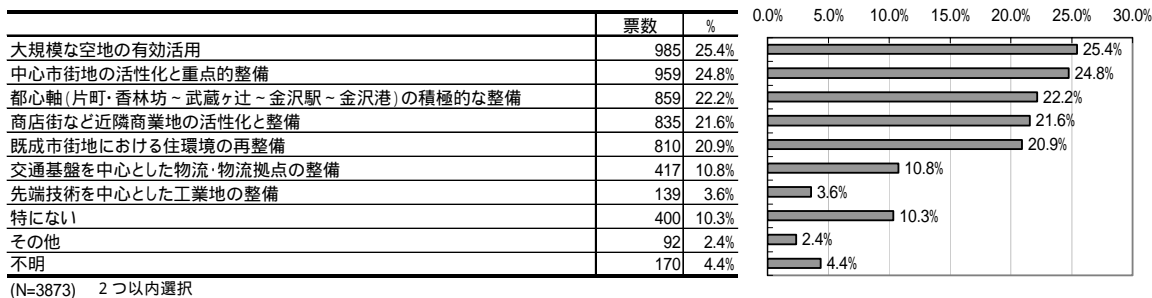
既定計画時においては、「駅周辺等の再開発事業等の推進」が最も多く選択されていましたが、着実な駅周辺等の再開発事業の進捗により今回は第4位となっています。

「観光・レクリエーション基盤の整備」が今回第1位となり、世界遺産登録を視野に入れた積極的な活動等を背景に観光都市金沢としての市民意識の高まりがうかがえます。

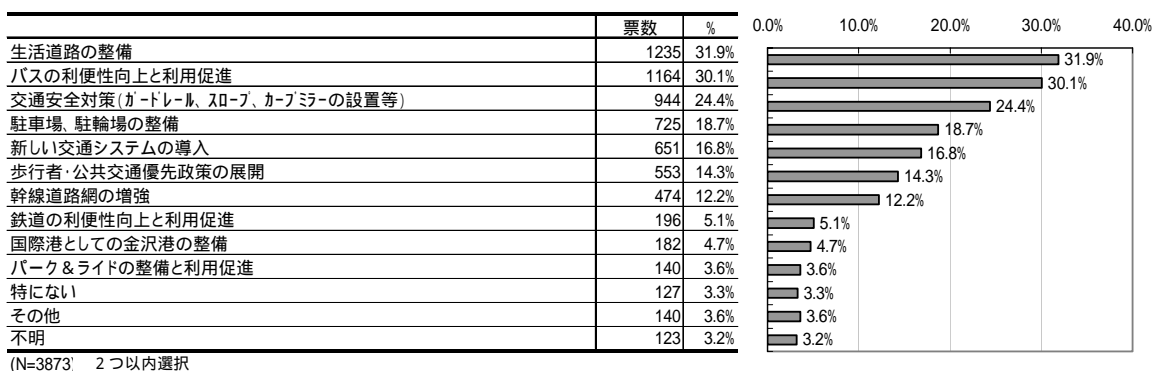
また、前回比較的回答数が少なかった「低層と中高層建築物の高さの混在解消」「住宅と工場、倉庫、店舗等の混在の解消」についても順位を上げており、建物用途及び高さの混在地区における土地利用的課題の顕在化がうかがえます。



市街地整備



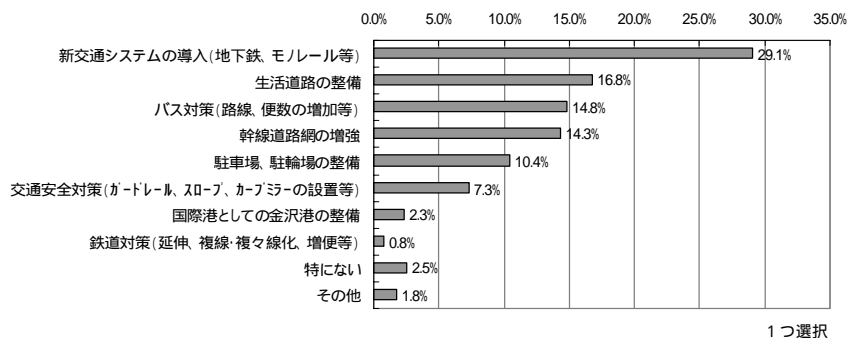
交通



< 既定計画との比較 >

「生活道路の整備」とともに「交通安全対策」が前回に比べて順位を上げており、身近で安全な交通環境の確保に大きな関心が向けられていることがうかがえます。

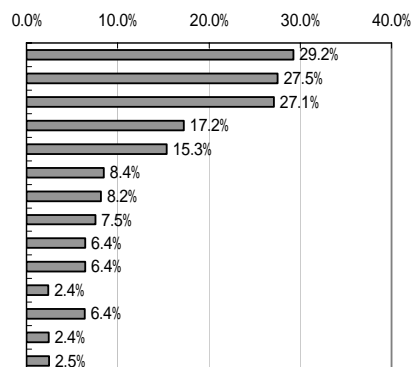
また、「バスの利便性向上と利用促進」が必要とする意見が前回よりも順位を上げているのに対し、「新しい交通システムの導入」が必要とする意見は大きく順位を下げており、バス交通への期待が高まっていることがうかがえます。



公園・緑地・みどり

	票数	%
子どもの遊び場など身近にある小規模な公園の整備	1132	29.2%
地区住民の憩いの場となる中規模な公園の整備	1066	27.5%
歴史・文化を活かした公園・緑地の整備	1050	27.1%
街路樹の整備	667	17.2%
スポーツ施設などの整った大規模な公園の整備	594	15.3%
神社・仏閣等の樹木樹林の保全	327	8.4%
まちかどの小広場(ポケットパーク)の整備	317	8.2%
建物の屋上緑化	292	7.5%
卯辰山や台地の斜面緑地の保全	249	6.4%
住宅・マンション周りの緑化	249	6.4%
公共施設や工場、事務所周りの緑化	92	2.4%
特にない	248	6.4%
その他	94	2.4%
不明	97	2.5%

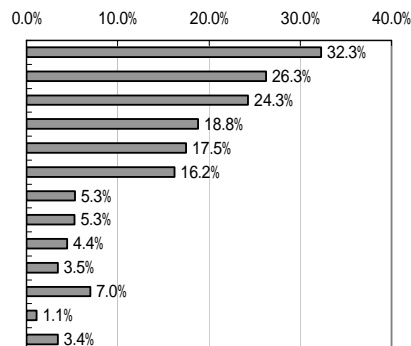
(N=3873) 2つ以内選択



景観

	票数	%
自然景観の保全	1250	32.3%
歴史景観の保全と創出	1018	26.3%
歴史的な建築物や樹木等の保全	940	24.3%
建物の高さ、形、色などの誘導・規制	729	18.8%
屋外広告物の高さ、形、色などの誘導・規制	677	17.5%
沿道(まちなみ)景観の整備	628	16.2%
夜間景観の形成	206	5.3%
市民・事業者等の自主的な活動の支援	205	5.3%
眺望景観の保全	172	4.4%
近代的景観の創出	134	3.5%
特にない	271	7.0%
その他	44	1.1%
不明	133	3.4%

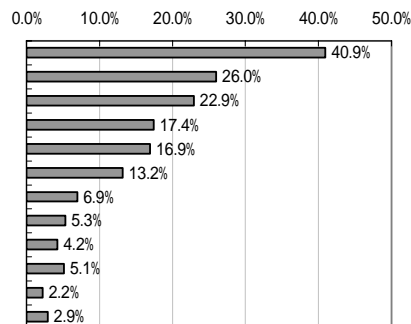
(N=3873) 2つ以内選択



その他市民生活を支える施設

	票数	%
高齢者福祉住宅や施設の充実	1585	40.9%
避難場所や防災施設の確保・整備	1006	26.0%
生涯学習・社会体育施設の充実	888	22.9%
ごみの適正処理	674	17.4%
公害、環境対策(騒音、振動、悪臭等)	655	16.9%
障害者福祉施設の充実	510	13.2%
公的な住宅の建設	269	6.9%
高度情報基盤の整備	207	5.3%
上下水道の整備	164	4.2%
特にない	199	5.1%
その他	87	2.2%
不明	112	2.9%

(N=3873) 2つ以内選択



5) 金沢市が今後より力を入れるべきまちづくりのあり方

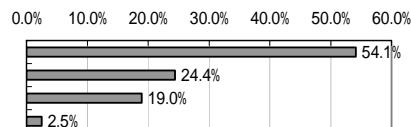
むやみな市街地拡大の抑制、車に過度に依存しない交通体系、低層戸建住宅を中心とする都心居住に力を入れすべきとの意見が多数を占めています。

適正な市街地規模の確保、中心市街地の活性化と郊外開発の抑制
公共交通機関の利用促進、地域の歴史資産の保全と活用

市街地展開

	票数	%
むやみな市街地拡大はさげ、まちなかにおいて都市機能の充実を図る	2096	54.1%
どちらともいえない	946	24.4%
積極的に市街地を拡大し、新市街地において新たな都市機能の整備を図る	734	19.0%
不明	97	2.5%

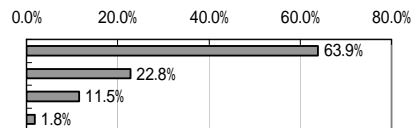
(N=3873) 1つ選択



交通

	票数	%
自家用車に過度に依存せず、公共交通などでの移動が便利なまちづくりを進める	2473	63.9%
車社会に対応し、自家用車での移動がスムーズなまちづくりを進める	883	22.8%
どちらともいえない	447	11.5%
不明	70	1.8%

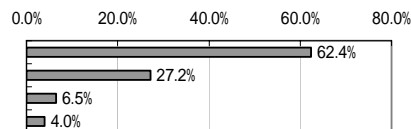
(N=3873) 1つ選択



都心居住

	票数	%
歴史・文化資源と調和した低層の戸建住宅の供給を展開する	2416	62.4%
どちらともいえない	1052	27.2%
近代的で土地の高度利用が可能な中高層マンション等の供給を展開する	251	6.5%
不明	154	4.0%

(N=3873) 1つ選択



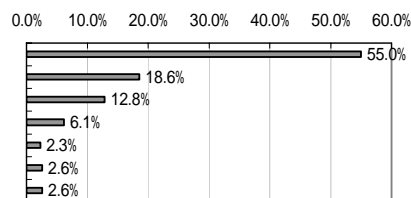
6) まちづくり活動への参加形式（意向）

情報提供や市民のまちづくりへの参加意欲高揚による、協働で進める都市づくりの積極的推進が必要です。

市民と行政の協働

	票数	%
参加はできないが、情報は知りたい	2130	55.0%
自治会を通じて参加協力したい	719	18.6%
まちづくりには興味があるので、会合などがあれば出席して聞いてみたい	497	12.8%
まちづくりの計画作成等の活動に積極的に参加したい	238	6.1%
まちづくりには興味がない	89	2.3%
その他	99	2.6%
不明	101	2.6%

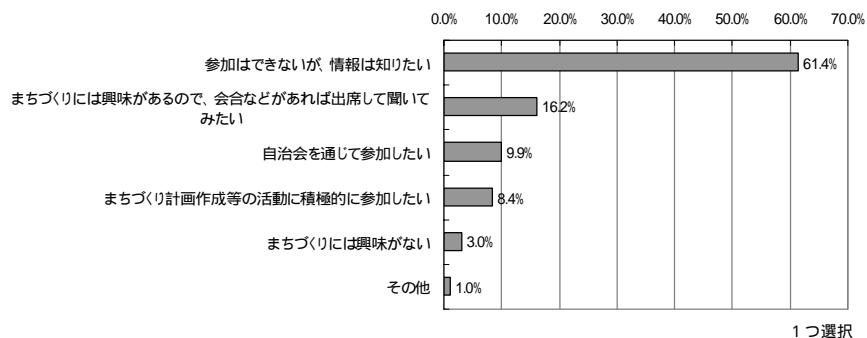
(N=3873) 1つ選択



< 既定計画との比較 >

前回同様、「参加はできないが、情報は知りたい」という回答が圧倒的に多く、市民のまちづくりへの参加意欲は、残念ながら向上しているとは言い難い状況にあります。

積極的に参加したい、まちづくりには興味があるという市民も少ないながらいることから、情報の公開・PRを積極的に進めながら、今後も引き続きまちづくりへの参加機会を提供し、市民等と協働で進めるまちづくりの実現を目指すことが必要と言えます。



1 3 今回の改訂にあたっての課題

都市計画マスタープランの改訂にあたっての課題の抽出については、当初都市計画マスタープランに示される都市計画の課題に対するこれまでの取り組み評価を踏まえつつ、6つの視点に基づいて、継続して取り組む課題ならびに新たに取り組むべき課題を抽出しました。

青字：継続する課題 赤字：新たな課題
印：市民意向調査結果からも裏づけられる課題

視点：世界に開かれた都市

整いつつある都市基盤の有効活用

【市街地基盤】

中心市街地活性化基本計画に基づく活性化施策の推進
観光レクリエーション基盤の整備
駅西都心軸を中心にした建物立地誘導と賑わいの創出
北陸新幹線金沢開業を見据えた適正な土地利用の誘導
駅西広場の再整備

【道路・交通】

歩行者、公共交通を優先するまちづくりの推進
外環状道路海側幹線の早期整備、内・中環状道路の完成
東海北陸自動車道へのアクセス道路整備の促進
金沢港の整備充実と臨港地区の基盤整備

【公共・公益施設】

生涯学習施設・社会体育施設などの充実

視点：人口減少、少子・高齢化社会

都市のコンパクト化と質の向上

【土地利用】

中心市街地活性化基本計画に基づく活性化施策の推進
まちなかにおける定住の促進と低未利用地の活性化
既存施設を有効に活用したまちづくりの展開
残存する大規模未利用地の基盤整備
適正な市街地規模への誘導
市街化調整区域の適正な土地利用の規制・誘導と集落機能の維持
周辺市町村との連携による土地利用適正化の推進

【道路・交通】

新交通戦略などに基づく交通施策の推進

- ・歩けるまちづくりの推進
- ・マイカーから公共交通への利用転換
- ・ゾーン特性に応じた交通体系の整備
- ・公共交通重要路線における一定のサービス水準の確保
- ・パーク＆ライド駐車場の計画的配置

【公共・公益施設】

高齢者福祉施設の拡充と既成市街地への誘導

視点：特有な歴史・文化・伝統

金沢特有の個性の発揮

【道路・交通】

広見などのコミュニティ空間の保存と活用

【公園・緑地・みどり】

歴史的文化遗产としての用水の保全と整備

歴史文化を活かした公園緑地の整備

【景観】

都市防災に配慮した伝統的なまちなみの保存

景観形成基本計画などに基づく景観施策の推進

(「景観計画区域」及び「景観地区」の位置づけ)

世界文化遗产登録を視野に入れた歴史的文化遗产の保全と周辺環境の整備

建築物高さの混在解消

【自然・地形】

川や斜面緑地など金沢固有の地形・自然の保全

視点：地球環境

都市と環境との共生

【道路・交通】

新交通戦略などに基づく交通施策の推進

- ・歩けるまちづくりの推進
- ・マイカーから公共交通への利用転換
- ・ゾーン特性に応じた交通体系の整備
- ・公共交通重要路線における一定のサービス水準の確保
- ・パーク＆ライド駐車場の計画的配置

【公園・緑地・みどり】

地域住民の憩いの場となる身近な公園緑地の整備
街路樹や敷地内植栽による都市内緑化の推進

【自然・地形】

海・山・川など自然環境の保全
都市周辺の農地や山林の環境を維持する農林業の充実

視点：安全・安心

安全・安心な暮らしの確保

【市街地基盤】

耐震改修促進など、木造密集地区における防災性の改善
計画的な防災まちづくりの推進

【道路・交通】

生活道路の整備促進
交通安全対策の充実
バリアフリー化の促進
地区ごとの歩けるまちづくりの推進

【安全・安心な環境】

避難場所や防災施設の確保、整備
水害、土砂崩れなどの災害予防対策の推進
防災組織の充実と市民の防災意識の向上

視点：市民参加

市民のまちづくり参加意識の向上

【まちづくり】

まちづくり協定など固有のまちづくりルールの普及推進
情報公開の充実などによる市民のまちづくりに対する意識の
向上
まちづくりの担い手の育成と多様な市民活動、組織への支援

【安全・安心な環境】

自主防災組織の充実と活動の活性化

第2章 都市の将来像

2-1 都市づくりの将来像

都市計画マスタープランでは、「世界都市構想」を実現するために、都市計画として必要な理念や基本方針を定めます。

今回の見直しにあたり、既定計画策定以降約10年にわたる本市の都市づくりの進捗や大きく変化した社会経済情勢等の背景を踏まえると、これからのまちづくりにおいては、環境保全、都市経営の効率化（都市のコンパクト化）、安全・安心の確保等により、きちんと次の世代に受け継いでいける金沢をつくりあげていくこと、また、都市の主役である市民を主体にまちづくりを進めることがより強く求められていると考えられます。

そこで、これらをもとに次のように「都市づくりの基本的テーマ」を掲げることとします。

- 都市づくりの基本的なテーマ -

市民とともに、金沢らしさを守り育て、持続可能なまちづくりを進めることにより、世界の中で独特の輝きを放つ

「世界都市金沢」の実現

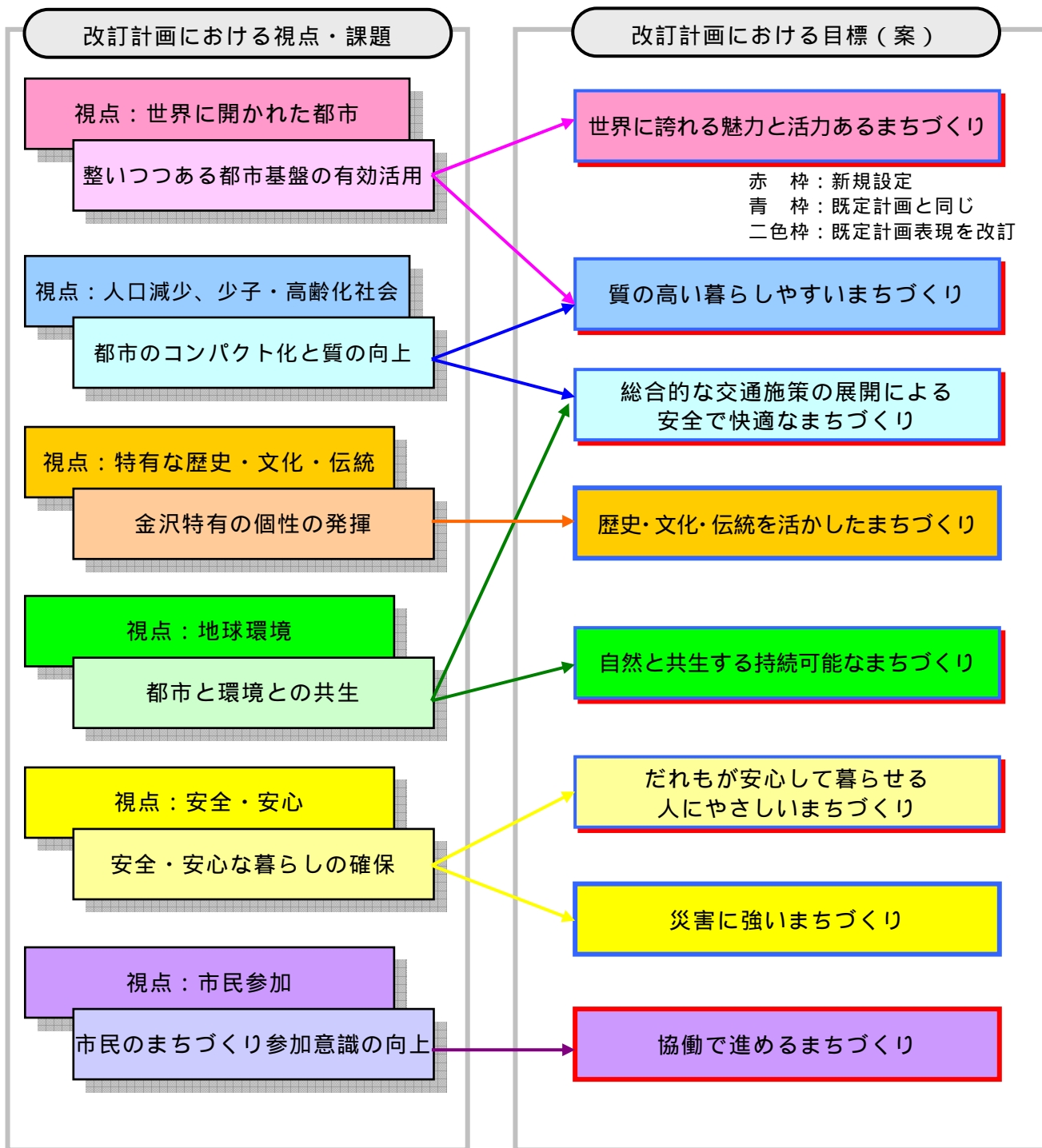
赤字は既定計画を変更、追記した部分



2 2 都市づくりの目標

『「世界都市金沢」の実現』のテーマのもと、これまで整理した視点や課題から、都市づくりの目標として以下に示す8つの項目を設定します。

図 - 都市づくりの目標の設定



世界に誇れる魅力と活力あるまちづくり

北陸新幹線をはじめとする各種基盤整備が整いつつあり、これらを最大限に活かし交流人口や企業進出の増加を図ることにより、中心市街地の活性化や地域拠点形成を図り、魅力と活力あるまちづくりをめざします。

質の高い暮らしやすいまちづくり

来るべき人口減少・少子高齢化社会に対応して、中心市街地を核とした効率的な都市経営を推進するとともに、農村集落の維持にも配慮し、都市全体としてバランスのとれた住環境を形成することにより、質の高い暮らしやすいまちづくりをめざします。

総合的な交通施策の展開による安全で快適なまちづくり

公共交通利用活性化と歩ける環境整備を最重要課題として、マイカーと公共交通のバランスのとれた交通体系の構築を推進することにより、誰もが円滑で安全な移動ができる快適な交通まちづくりをめざします。

歴史・文化・伝統を活かしたまちづくり

日本を代表する大型の城下町として重層的な歴史のなかで継承されてきた都市構造や文化・伝統は、金沢の貴重な財産であり、世界文化遺産登録を視野に入れた取組を進めることにより、自らの歴史に責任を果たせるまちづくりをめざします。

自然と共生する持続可能なまちづくり

白山山系を背に日本海に面し、三つの丘陵と二つの河川からなる独自の地形を骨格とする豊かな自然を後世に守り伝えるとともに、農地や森林の維持を含めた総合的な環境保全の取組を推進することにより、自然と共生する持続可能なまちづくりをめざします。

だれもが安心して暮らせる人にやさしいまちづくり

高齢化社会への対応はもちろん、すべての人が快適で安心して暮らせるよう、各種施設のバリアフリー化や防犯対策などを推進することにより、地域が支える人にやさしいまちづくりをめざします。

災害に強いまちづくり

起伏に富んだ魅力ある地形、伝統的なまちなみを守りつつ、防災性向上に必要となるハード・ソフト両面からの施策を積極的に展開することにより、災害に強い安心で安全なまちづくりをめざします。

協働で進めるまちづくり

まちづくりは市民を主役に産・学・官の全ての知恵と力をあわせて取り組むことが不可欠であり、そのために必要な体制・組織づくりや情報公開を推進することにより、協働による開かれたまちづくりをめざします。

2 3 将来の都市構造

(1) 将来都市構造

本市の将来像実現に向けた都市づくりの骨格となる都市構造を、大きく「土地利用」「交通」「景観・歴史」「水と緑」の区分により設定します。

1) 土地利用

【基本的土地利用区分】としてまちなか(中心市街地)、市街地、農業環境、自然環境の4つのゾーンを設定するとともに、【主要な都市機能】として都心軸、地域中心拠点、産業拠点、学術拠点の設定を行うことにより、本市の都市づくりの基盤となる土地利用構成を提示します。

【基本的土地利用区分】

まちなか(中心市街地)ゾーン

中心市街地活性化基本計画の対象区域をまちなか(中心市街地)ゾーンとして位置づけます。

金沢らしさの象徴であり都市全体の核となるゾーンとして、これまでも近代的都市機能と自然・伝統のバランスに配慮したまちづくりを進めてきました。今後は、世界都市金沢の実現のため、歴史的財産にさらなる磨きをかけるとともに、定住促進、商業業務の活性化、交流人口の拡大、歩行者中心の交通政策の推進を積極的に進めることにより、にぎわいと活力のある風格を備えた中心市街地の実現を進めます。

市街地ゾーン

おおむね現状の市街化区域を市街地ゾーンとして位置づけます。人口減少、少子高齢化社会の到来を背景とした持続可能な都市づくりを進めるために、今後は原則として市街地の拡大を行わないものとします。

市街地ゾーンは、大半が戦後形成された新市街地であり、約半分は土地区画整理事業が導入されています。住宅地を中心に商業業務地、工業地、流通業務地などが配置されており、地区ごとの特性に配慮した機能整備を進めます。また、まちづくりルールの普及をはじめとして市民とともに安全・安心で質の高い住環境整備に努め、成熟した都市にふさわしい市街地づくりを推進します。

農業環境ゾーン

主としてJR北陸本線以西平野部の市街化調整区域である河北潟周辺地区、粟五地区や安原地区等については、優良農地を保全し農業の振興を図るとともに、良好な集落等の生活環境づくりを進める農業環境ゾーンとして配置します。

自然環境ゾーン

市街地の後背部にある山間地、犀川・浅野川の両河川および海岸線沿いを自然環境ゾーンとして位置づけます。

金沢市は多様な地形のもと豊かな自然に恵まれており、都市を構成する貴重な財産として、そして、良好な景観の主要な構成要素としても守り続けていかなければなりません。自然環境ゾーンは、生態系保全、水源保全、災害防止などの基本的な機能に加え、潤いとやすらぎの場、観光資源といった機能にも配慮し、保全を基本に活用を図っていきます。また、後背地となる山間地に点在する集落について、農地や森林を守っていくためにも集落機能の維持に努めていくこととします。

【主要な都市機能】

都心軸

片町・香林坊から武蔵、金沢駅を經由して金沢港に至る軸線を都心軸と位置づけます。ここに、日本海側の中枢基幹都市として備えるべき商業業務機能や各種交通施設などの都市機能を配置し、風格ある近代的都市金沢の顔を形成します。また、まちなかゾーンにおいては、「保全」と「開発」のバランスにおいて「開発」を担うエリアと位置づけ、中心市街地活性化を積極的に進めます。

< 軸上都市拠点 >

- ・ 片町・香林坊地区、武蔵地区を中心商業地として位置づけます。
- ・ 金沢駅周辺は金沢の玄関口として商業機能を備えた最重要交通結節点として位置づけます。
- ・ 石川県庁周辺地区は、駅西副都心の核として位置づけます。
- ・ 金沢港地区は、港湾機能の核であり、世界から人を迎える海の玄関口として位置づけます。

地域中心拠点

JR北陸本線の森本駅、東金沢駅、西金沢駅周辺について、鉄道駅や広域交通体系の立地利便性を活かした地域活性化の核として機能するよう地域中心拠点として位置づけます。

産業拠点

おおむね外環状道路より外側に整備した金沢港周辺、専光寺地区、安原異業種工業団地、いなほ工業団地、金沢テクノパーク周辺の工業地を産業拠点として位置づけ、企業の新規誘致や市街地からの移転企業の受け皿として機能強化を図ります。また、北陸自動車道金沢東・西インターチェンジ周辺地区についても、広域交通ネットワーク等を活かした本市の産業発展を支える核として、産業拠点に位置づけます。

学術拠点

金沢には、金沢大学や金沢美術工芸大学をはじめとする多くの大学、研究機関があり、隣接市町を含めると更に充実した状況となり、そこにある知恵と力は大きな財産といえます。これらを学術拠点として位置づけ、市民・大学・行政の連携密度を高めていくことにより、さらに質の高いまちづくりの展開を目指します。

2) 交通

都市活動を支える骨格的な交通機能を、主として遠方および隣接する都市間との連絡機能を担う「広域交通ネットワーク」と、主として都市内の連絡機能を担う「都市内交通ネットワーク」に区分して配置します。

今後は、地球環境の保全および人口減少・少子高齢化社会の到来に対応していくために、自動車に依存しない交通体系づくりを進めていく必要があります。そこで、歩行者・公共交通を優先するまちづくりを推進する観点から、公共交通重要路線、交通結節点、パーク&ライド駐車場を位置づけ、人と環境に優しい交通体系を構築していきます。

広域交通ネットワーク

道路...北陸自動車道、東海北陸自動車道、能登有料道路により富山、福井、中京、能登への主要経路を確保します。また、一般道として、国道8号をはじめとする国道・県道があり、これらの機能強化と渋滞対策を進めていきます。また、東海北陸自動車道(福光方面)への連絡道路の整備を図ります。

鉄道...周辺都市との連絡機能としてJR北陸本線、七尾線があります。また、2014年に予定される北陸新幹線金沢開業に向けて全力で整備を推進します。

都市内交通ネットワーク(道路)

内・中・外の3つの環状線を中心にそれらを放射状に結ぶ放射環状幹線により基本的道路ネットワークを構成します。内・中環状の残された区間の早期完成を進めるとともに、海側環状の開通を最重要課題として取り組みます。また、公共交通との関係に配慮して市内の交通渋滞の解消に向けた取組も推進します。

都市内交通ネットワーク(公共交通)

公共交通の充実を最重要課題として取り組み、このための主要な施設として以下の3つの機能の整備を進めます。

公共交通重要路線

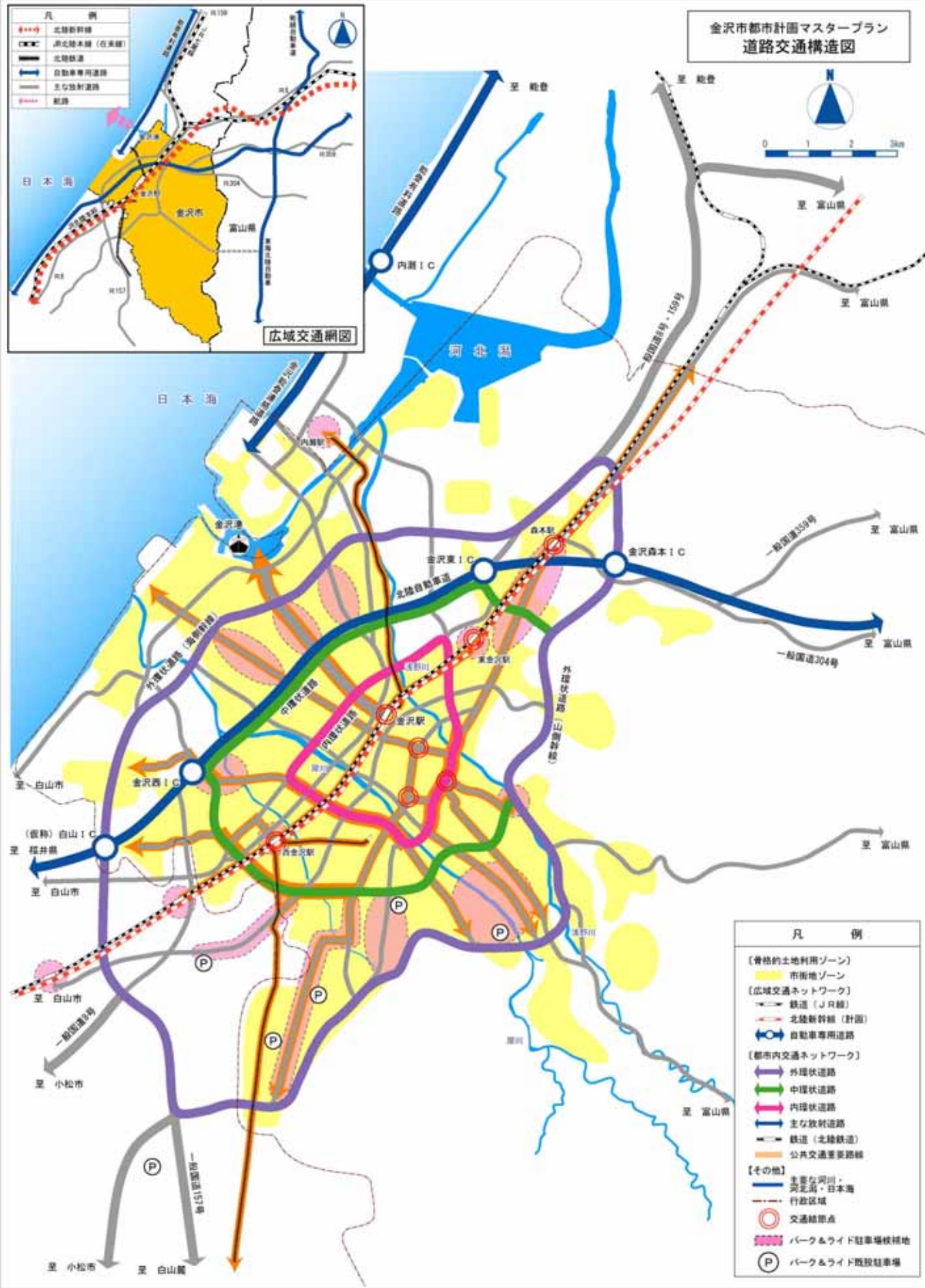
都心と市街地ゾーンを連結する公共交通幹線として主要なバスルートと鉄道を位置づけます。バスルートでは、積極的にバスの優先化などを進め、公共交通の利便性向上を図ります。

交通結節点

複数の公共交通を効率よく接続し利便性を固めるために、駅や主要バス停を交通結節点として位置づけ、必要な整備を推進します。

パーク&ライド駐車場

公共交通の利用を促進し、都心への過度な自動車の流入を抑制するために中環状の外側を中心に、自動車から公共交通に乗り換えるパーク&ライド駐車場を整備します。



3) 景観・歴史

これまで景観条例を基に積極的に景観形成を誘導してきましたが、基本的対象区域をまちなかゾーンに拡大することをはじめとして、景観法や県の景観条例による仕組みも併用して、より良好な景観形成を推進します。さらに、世界文化遺産登録を視野に入れた取組との連携・整合を図り、固有の歴史文化遺産に磨きをかけ、さらなる個性の確立を目指します。

また、自然景観、沿道景観、寺社風景をはじめとした個別の目的に基づく景観形成を推進するとともに、市民意識の向上を図り、市域全体の魅力ある景観づくりに努めていきます。

伝統環境保全ゾーン

城下町としての都市構造やまちなみ景観の保全を目指して、まちなかゾーン全体に区域拡大することをはじめとして、金沢の歴史的景観を保全・創出していくために必要な地区を積極的に伝統環境保全ゾーンに位置づけていきます。

金沢城や兼六園をはじめとする市内各所の歴史文化遺産を核に点から線、線から面への景観形成を進め、人々の暮らしや時の移ろい(昼夜、季節)にも配慮した魅力ある情景づくりに努めます。また、景観地区(景観法)の指定をはじめとして景観形成のよりよい仕組みづくりも推進していきます。

近代的都市景観創出ゾーン

都心軸及び軸上都市拠点を含む地域を中心に近代的都市景観創出ゾーンを位置づけます。

伝統環境保全ゾーンとの調和を図りながら、金沢の活力と賑わいあふれる洗練された都市景観を育成、創出します。

沿道景観形成軸

北陸自動車道、外環状線やこれらとつながる主要幹線には、通過交通を含む市内外からの多くの通行があり、その沿道は来訪者の金沢に対する第一印象を与える場所ともなっています。そこで、沿道景観形成軸を指定し規制・誘導を行い、金沢にふさわしい品格のある沿道景観の形成を推進していきます。

歴史・文化拠点

金沢には、金沢城、寺院群、茶屋街、金澤町家などのまちなみに加え、昔からの道路や用水などの多くの歴史的遺産があり、これらを歴史・文化拠点として積極的に位置づけていきます。また、台地や斜面緑地などの豊かな自然も残っており、伝統芸能・工芸などの無形の伝統文化を含めて磨きをかけることにより、世界に向けて「城下町金沢」を発信します。



4) 水と緑

本市の都市づくりにおいて、市民生活に憩いと潤いを与える骨格的なみどり・環境としては、犀川及び浅野川とこれによって形づくられた河岸段丘、斜面緑地、市街地背後に広がる山裾の緑、海岸線からなる都市環境軸、市民などの憩いの場として整備された公園緑地などのレクリエーション拠点及び、都市基幹公園を位置づけます。

都市環境軸

金沢は、市街地の東にある卯辰山、小立野台、寺町台の三丘陵と、市街地を横断するように流れる犀川、浅野川の両河川により形成された自然地形及び河岸段丘の斜面緑地、さらに、市街地の西には日本海の海岸線、河北潟が立地するという地形的に特徴ある都市構造を呈しています。

これらは金沢の風土を形成する大きな要因となっているばかりでなく、景観的特徴をも顕著に示しており、自然と共生する持続可能な都市づくりを実現するための貴重な風土軸として位置づけます。

レクリエーション拠点

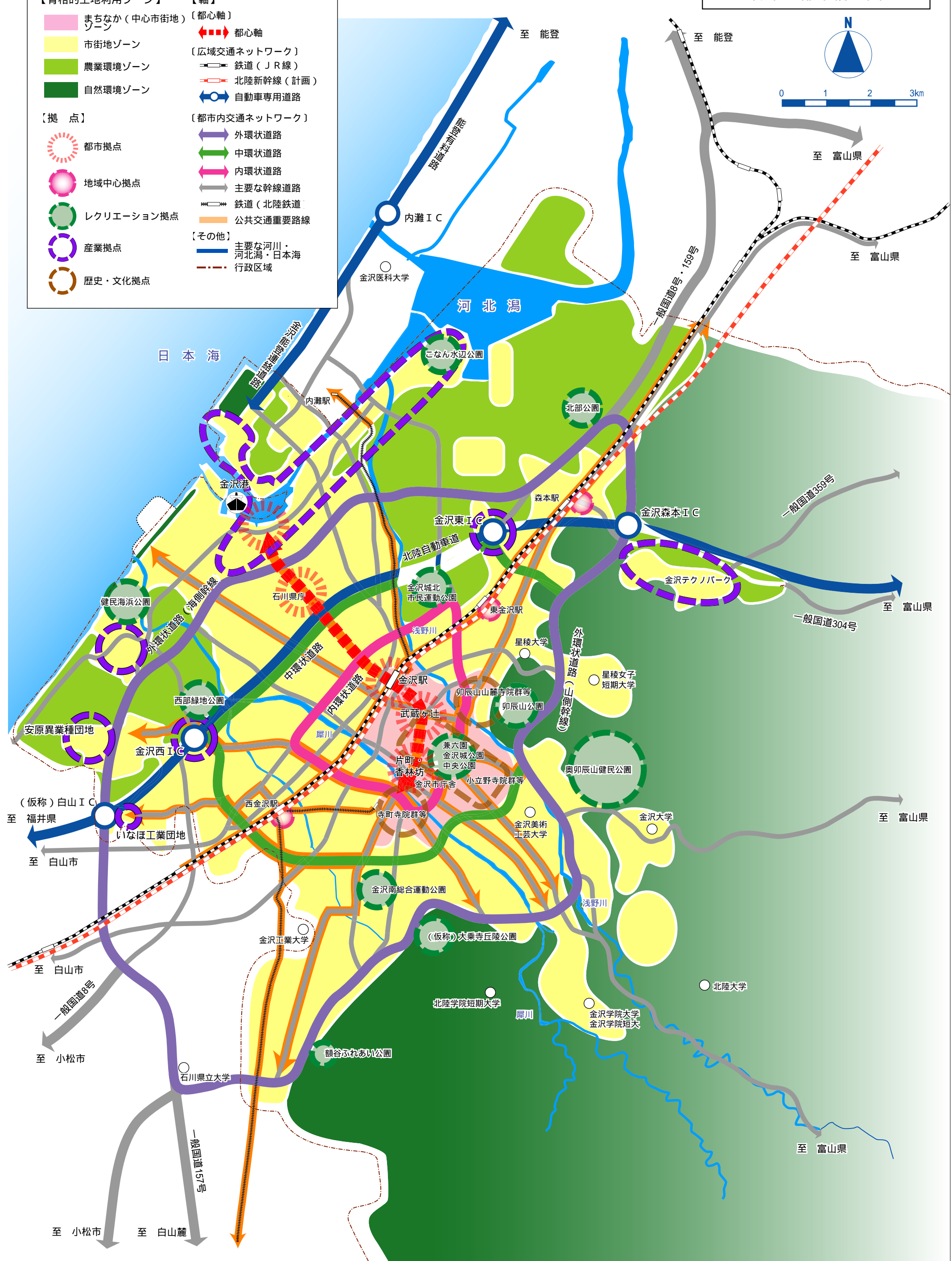
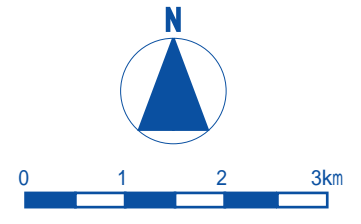
市民はもとより広域的な利用者の憩いの場となる金沢城公園、奥卯辰山健民公園、北部公園、(仮称)大乘寺丘陵公園、卯辰山公園をはじめ、スポーツ利用を中心とした金沢城北市民運動公園、西部緑地公園、金沢南総合運動公園及び健民海浜公園、こなん水辺公園、額谷ふれあい公園、中央公園、兼六園、犀川、浅野川をはじめとする河川敷などの自然や歴史を活かした特徴ある公園について、レクリエーション拠点として位置づけます。

都市基幹公園

都市基幹公園である街区公園、近隣公園は、その誘致距離により、また、ネットワークにも配慮しながら適切に位置づけます。

金沢市都市計画マスタープラン
将来の都市構造図

凡 例	
【骨格的土地利用ゾーン】	【軸】
<ul style="list-style-type: none"> まちなか（中心市街地）ゾーン 市街地ゾーン 農業環境ゾーン 自然環境ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> 都心軸 〔広域交通ネットワーク〕 鉄道（JR線） 北陸新幹線（計画） 自動車専用道路
【拠点】	【都市内交通ネットワーク】
<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 地域中心拠点 レクリエーション拠点 産業拠点 歴史・文化拠点 	<ul style="list-style-type: none"> 外環状道路 中環状道路 内環状道路 主要な幹線道路 鉄道（北陸鉄道） 公共交通重要路線
	【その他】
	<ul style="list-style-type: none"> 主要な河川・河北潟・日本海 行政区域



(2) 都市のコンパクト化に向けた考え方

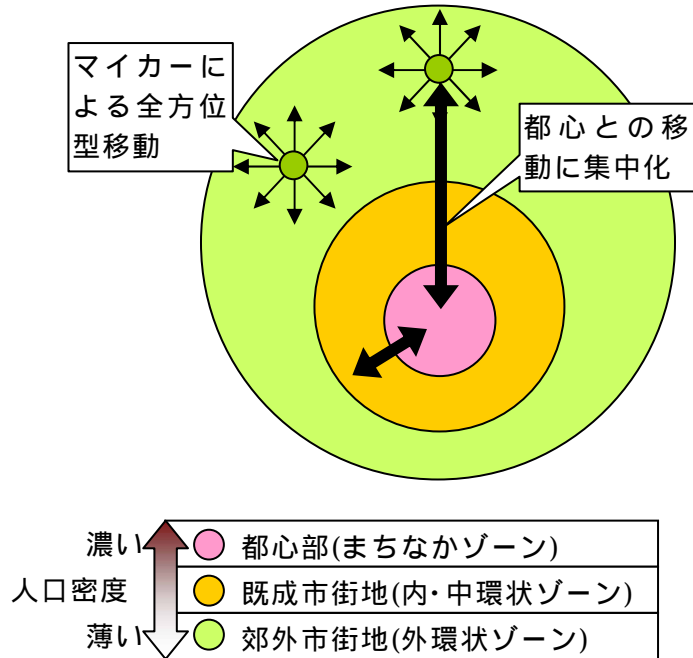
人口減少を前提とした都市計画に転換するためには、都市経営の効率化が不可欠であり、総じて都市のコンパクト化を目指す必要があります。本市では、基本的な都市の将来形態として、都心機能をまちなかゾーンに集約させ、この都心を中心としたコンパクト化を目指しています。そして、この実現に対して長期的な視野に立ち取り組むこととします。

基本的な取組として、先ず、公共交通を主体に都心と居住地における関係のシンプル化を推進し、並行して時間をかけ居住地選択の誘導・集約を進めることにより都市のコンパクト化につなげていくことを目指します。

1) 「都心との関係のシンプル化」

戦后市街地が拡大する中、郊外市街地の居住者の移動はマイカーによる自由な全方位型が基本となっています。しかし、高齢化の進展によりマイカーを運転できなくなる住民が増加することは必須であり、これらの人々は移動の主体を公共交通に転換させなければなりません。また、環境保全の視点からマイカーの利用自粛が課題となっており、公共交通の重要性はますます高まっています。

しかし、物理的、財政的にこれまでのような全方位型の移動を公共交通で担保することは不可能です。そのため、都心部との移動に方向を限定した公共交通の利便性確保を推進し、この交通基盤の確立により、既成市街地の人々も郊外市街地の人々も(移動距離の違いはあれども)同様な都心部との移動関係を持つことが可能となります。このように、買い物を中心とした都市内の移動に関して、都心と全ての居住地の関係のシンプル化を推進します。この都心と居住地を結び公共交通の利便性確保を図るルートを、「公共交通重要路線」として市民に提示していきます。



郊外市街地の移動形式イメージ

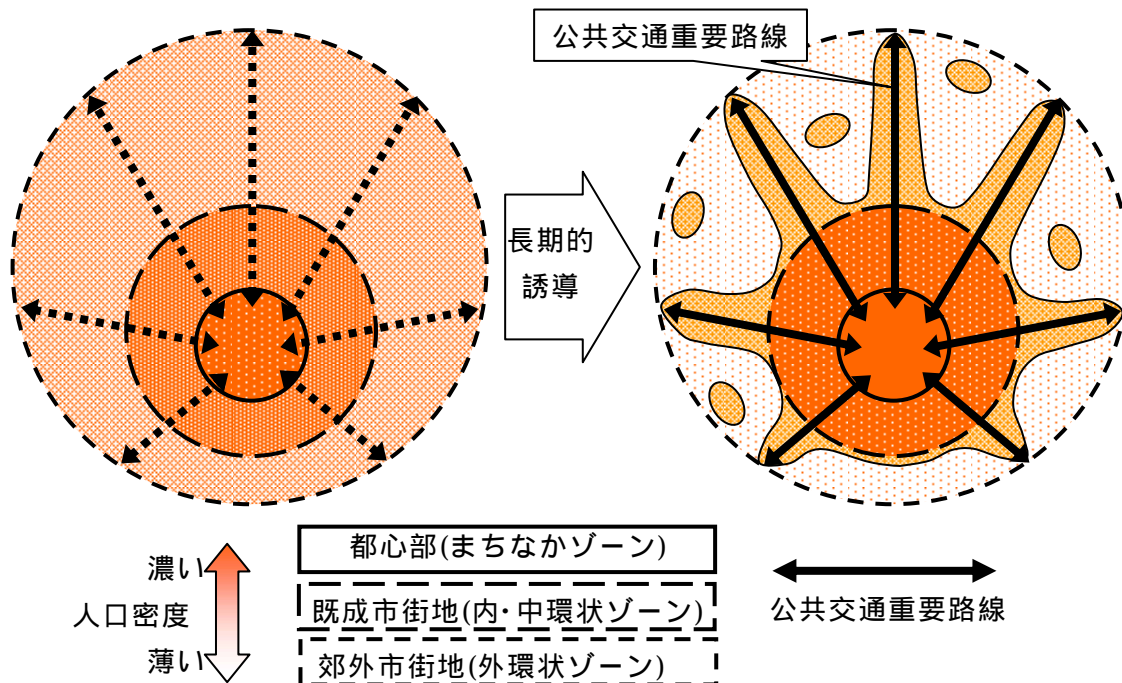
2) 緩やかな市街地のコンパクト化への道筋

「都心との関係のシンプル化」を進めることにより、公共交通による一定の移動が将来的にも確保される範囲として、都心部、既成市街地及び公共交通重要路線沿いが提示されることとなり、その結果、郊外市街地においては、自動車移動が主となるエリアと公共交通による一定の移動が可能なエリアに分けられることとなります。

居住地は、生活スタイルなどの様々な条件により選択されますが移動手段も重要な条件の一つとなっています。金沢市において居住地選択を行う時に、高齢化に配慮した終の棲家としては、上記の自動車を使えなくても一定の移動が確保される場所が優先的な候補地となります。これから先、長い年月をかけて公共交通の利便性を誘導材料として、漸次市街地の集約化を進め、コンパクトな市街地の実現につなげていく予定です。(イメージ図参照)

中心市街地の活性化と公共交通の利便性向上を柱としてコンパクトシティへの道筋をつけますが、この長期的誘導をより円滑に進めるために以下の施策の検討を進めます。

- 公共交通重要路線沿いの住環境整備
- 交通結節点における地域商業地の機能拡充
- 将来的公共交通移動確保エリアの(水準を含めた)周知
- 生活スタイルにあわせた居住地選択(不動産流通)の推進
- 郊外の空いた宅地における住宅以外の有効利用の検討



都市構造の物理的コンパクト化イメージ